

アフターコロナと日本の進路

国際政治学者
三浦 瑠麗

- * 感染症における新型コロナウイルスの位置づけ
- * 42万人死亡説と実際の乖離を検証する
- * 日本はパンデミックに脆弱な国
- * 露呈した日本の医療制度の問題点
- * 香港問題など再考が必要な対中仮説
- * コロナ禍で力増すポピュリズム
- * 内向きにならざるを得ない米国
- * 現実離れた中国包囲論
- * 日本の取るべきスタンス
- * スピード感持った意思決定に必要なものは



柴生田 それでは開会いたします。

本日は三浦瑠麗さんにおいていただきました。何度もおいでいただいておりますのでご存じかと思いますが、1980年のお生まれで、東京大学理科一類に入学され、農学部を卒業された後、大学院で公共政策を研究されました。学術振興会の研究員を経て、現在は山猫総合研究所というご自身の研究所で研究活動をされておられます。

この1年半ぐらいコロナで大騒ぎをしてまいりまして、日本人の頭の中は感染のことではないです。もっと重要なことがたくさんあると私は思っているんですが、そういうことを言うってくださる方が非常に少なく、思っているも何か言うとパッシングされるのが嫌だ。ある

意味でたいへん不自由な社会になっております。先週、阪阪さんが戦中戦後の石橋湛山についてお話しになり、戦時色の強かった時代と同じような空気というのをたいへん憂いておられましたが、そういうことをわれわれはもうちょっと考えなければいけないと思います。

今日は「アフターコロナと日本の進路」について、こういった状況を経て日本はどういうふうになっていかなくはないのか、そういったお話を三浦さんにしていただきたいと思えます。それではよろしく願います。

感染症における新型コロナウイルスの位置づけ

三浦 ご紹介ありがとうございます。三浦でございます。